



安全な通学を願って

折りづる会が交通安全祈願マスコットを寄贈

2月22日、町内のボランティアグループ・折りづる会より手づくりの交通安全祈願マスコットが教育委員会に寄贈されました。

児童たちの安全な通学を願うペンギンのマスコットは、小学校の新一年生全員に贈られます。



危険から身を守るために

町防犯協会が防犯ブザーを寄贈

2月27日、津別町防犯協会から教育委員会に防犯ブザーの寄贈があり、中川孝敏会長と加藤恭男副会長から近野教育長に手渡されました。

防犯ブザーの寄贈は、平成13年から毎年行われ、今年で23回目の寄贈となります。



子どもたちに読んでもらうために

おはなしポケットが子どもの本100冊を寄贈

3月6日、津別読み聞かせの会「おはなしポケット」から教育委員会に小学校中学年図書100冊の寄贈がありました。おはなしポケットは、公益財団法人伊藤忠記念財団より本100冊の助成を受け、津別の子どもたちに読んでほしいとの思いから、教育委員会に寄贈しています。

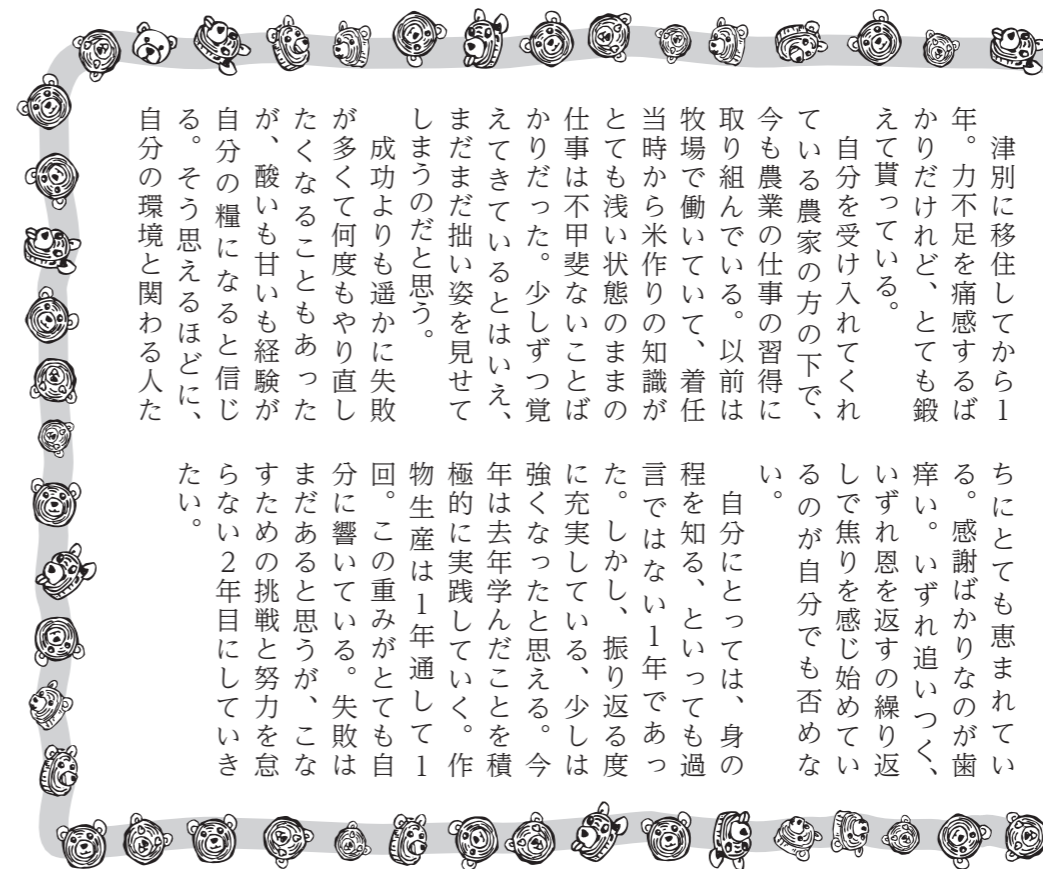


地域内エコシステムの構築を図る

北海道開発局網走開発建設部北見河川事務所と協定を締結

3月10日、北海道開発局網走開発建設部北見河川事務所と町が地域内エコシステムの推進に関する基本協定を締結しました。協定書は、発注工事の際に発生する河川支障木などの建設副産物等を優先的に町に提供する内容等となっています。地域内エコシステムの推進に関する協定締結は、全国初の取り組みです。

協定式の様子を YouTube にて公開しています。



地域おこし協力隊員が津別町に来て学んだことを感じました。

その101 経験は糧



津別への移住2年目になる準・新参者。星空や月明り、雪の結晶に未だに感動する道民8年目。

地域おこし協力隊のつぎのステップ

津別に移住してから1年。力不足を痛感するばかりだけれど、とても鍛えて貰っている。自分を受け入れてくれる農家の方の下で、今も農業の仕事の習得に取り組んでいる。以前は牧場で働いていて、着任当時から米作りの知識がとても浅い状態のままの仕事は不甲斐ないことばかりだった。少しずつ覚えてきているとはいえず、まだまだ拙い姿を見せてしまうのだと思う。成功よりも遥かに失敗が多くて何度もやり直したくなることもあったが、酸いも甘いも経験が自分の糧になると信じている。そう思えるほどに、自分の環境と関わる人たちにとても恵まれている。感謝ばかりなのが歯痒い。いずれ追いつく、いずれ恩を返すの繰り返しで焦りを感じ始めているのが自分でも否めない。

自分にとっては、身の程を知る、といっても過言ではない1年であった。しかし、振り返る度に充実している、少しは強くなったと見える。今年は去年学んだことを積極的に実践していく。作物生産は1年通して1回。この重みがとても自分に響いている。失敗はまだあると思うが、こなしための挑戦と努力を怠らない2年目にしていきたい。

北海道移住ドラフト会議に密着



現在インターネットで公開中！ 町のHPをご覧ください

今年3月、札幌で行われた「北海道移住ドラフト会議2022-23」。移住者を増やしたい自治体や企業を球団に、移住希望者を選手に見立て、野球のドラフト会議のように行われます。北海道への関係人口を増やすユニークな取り組みです。

津別町は2018年のスタート時から出場し、今回で5回目の出場。過去にはこのイベントをきっかけに津別町に移住した方もいる「北海道移住ドラフト会議」の熱い二日間に密着しました。ぜひご覧ください。



この番組は、津別町の今を映像で定期的に発信（月1回）することで、町民の町づくりへの参加促進、移住・定住の促進、ふるさと納税の拡大を図り、町づくりの記録を残すことで、10年後20年後の町民への財産とします。完成した映像は、町のWebサイトや道東テレビ、YouTube等で公開いたします。また、さんさん館、津別病院、道の駅あいおいに設置された「デジタルサイネージ（映像看板）」でも視聴することができます。※タウンニュースつべつは、ふるさと納税の寄附金により制作しています。

毎月末日ごろ更新
《取材希望企業・飲食店・生産者募集!! 詳しくは役場住民企画課まで》
問い合わせ先 住民企画課 企画係 14番窓口 ☎ 77-8374